令和３年度

富良野農業の概要

富良野市経済部農林課

３　富良野農業の現況

１．富良野農業の情勢

【令和２年の営農】

春先は雪解けが早く例年以上に生育が進んだが、６月上旬と７月中旬に干ばつ傾向、また、６月下旬に低温傾向となり、播種時期が遅かった作物は収量減や小ぶり傾向となりましたが、大きな災害もなく、どの作物もおおむね順調に生育し、平年通りの収量でした。しかし、３月に大雪が降りハウスに甚大な被害が出たため、令和３年度のメロン等の収量が減少するおそれがあります。

【政策・事業】

富良野市は平成31年３月に「第３次富良野市農業及び農村基本計画」を策定しました。これは、農業及び農村に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するために、基本条例の条項に沿って中期的な施策の目標や内容をあきらかにしたもので、これに則り農業振興を進めていきます。

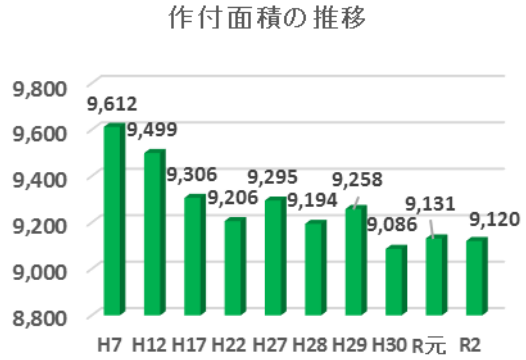
【トピック】

日付	内容
令和２年４月７日	新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言が７都府県で初めて発令される
７月１日	容器包装リサイクル法の改正によりレジ袋有料化
７月16日	藤井聡太七段 史上最年少でタイトル獲得
８月16日	菅義偉 第99代総理大臣に
12月２日	改正種苗法成立
令和３年１月21日	アメリカ　トランプ政権からバイデン政権へ

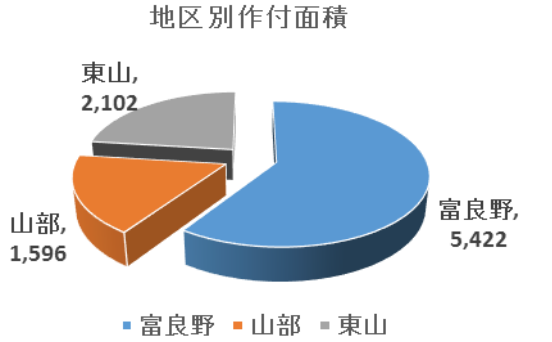
２．富良野農業の構造

【作付面積】

令和２年度の富良野市の作付耕地面積は9,120haで、地区別では富良野5,422ha、山部1,596ha、東山2,102haとなっています。



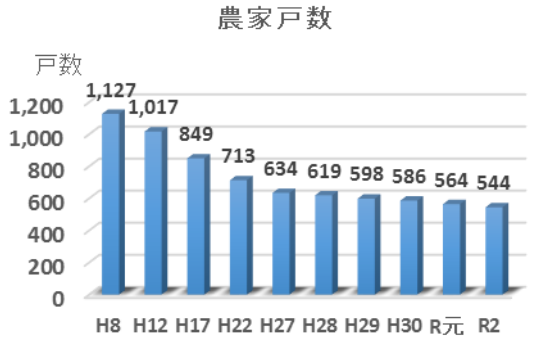
資料：JA



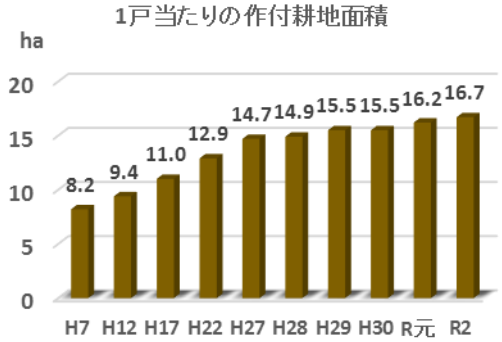
資料：JA

【農家戸数等】

富良野市の農家戸数は減少傾向にあり、令和２年は544戸となっています。また、一戸あたりの作付耕地面積は集約が進み、増加傾向であり令和２年は16.7haとなっています。



資料：農業委員会　農地台帳登載事項確認届出書



資料：農業委員会、JA ふらの作付実態調査

３．農業経済

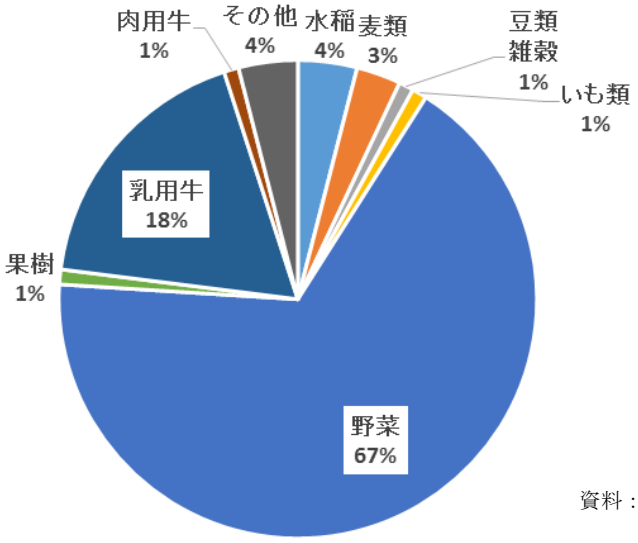
【農業産出額】

令和元年度の農業産出額（農林水産省資料）は、約 169.1 億円となっています。

その内訳は、玉ねぎ、にんじん、スイカ、メロン、馬鈴しょを中心とした野菜が 67%を占めており、乳用牛 18%、水稲 4%、麦類 3%となっています。

また、参考資料として農協の販売高を下に掲載しています。加工を含んだ農協のみの販売高であるため、農業産出額と金額が異なります。

農業産出額											（単位：百万円）	
年度	計	水稲	麦類	豆類雑穀	いも類	野菜	果樹	花卉	乳用牛	肉用牛	その他畜産	その他
H29	16,680	780	400	160	240	11,240	140	40	2,880	100	240	470
H30	17,830	780	380	130	190	12,650	130	40	2,940	100	230	350
R元	16,910	730	590	160	170	11,330	120	-	3,080	80	-	650



資料：農林水産省

令和元年度　農業産出額の割合

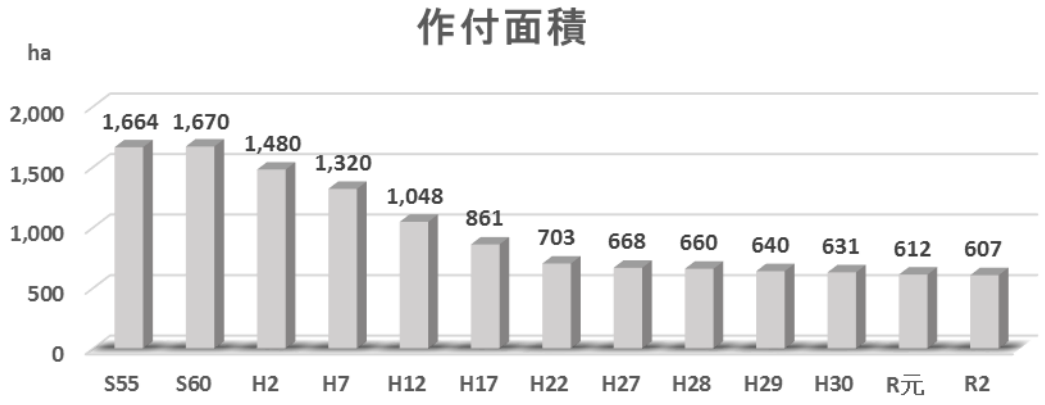
＜参考資料＞

農協販売高											（単位：百万円）	
年度	計	水稲	麦類	豆類雑穀	いも類	野菜	果樹	花卉	乳用牛	肉用牛	その他畜産	その他
H30	17,697	390	439	410	157	9,119	44	29	2,594	198	4	4,315
R元	17,540	355	634	491	171	8,686	60	28	2,665	214	1	4,235
R2	18,329	452	611	471	177	9,116	65	23	2,662	208	4	4,542

４　農畜産物の生産状況

１．水稲

富良野市の水稲作付面積は昭和 45 年（1970 年）からの生産調整によって大きく減少し、平成 22 年度からは微減傾向となり令和２年度は 607ha となっています。また、新型コロナの影響で米の需要が減っており、在庫が増加しています。そのため、今後さらに作付が減少すると予測されます。



資料：JA ふらの

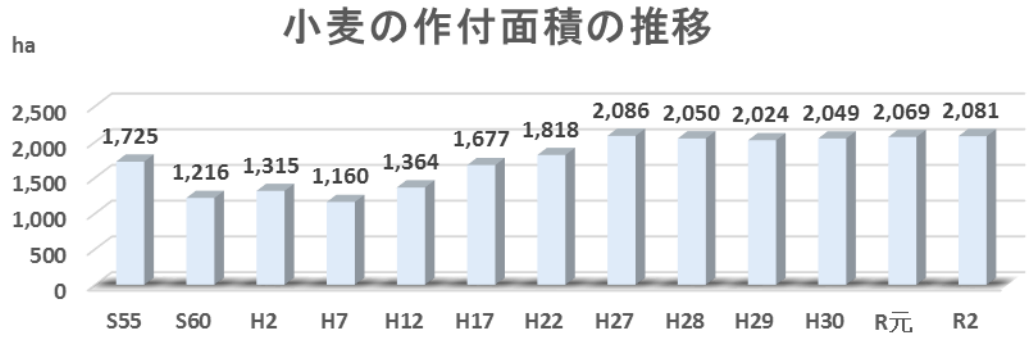
２．畑作

令和２年度の作付面積は、麦類では 2,256ha、大豆は 139ha、てん菜は 527ha、馬鈴しょは 161ha となっています。

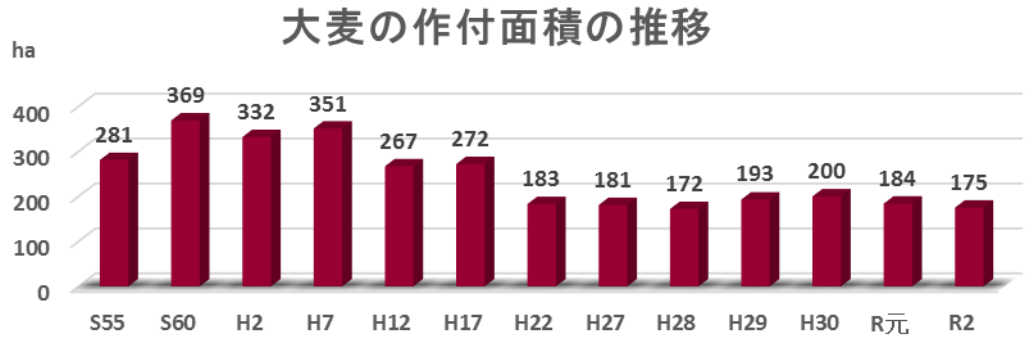
【小麦・大麦】

小麦・大麦の作付面積は横ばいで推移しています。令和２年度は、小麦は秋小麦 1,724ha、春小麦 357ha で合計 2,081ha、大麦は 175ha となっています。

生産に当たっては、合理的な輪作体系の確立、基本技術の励行や効果的な防除・施肥等の技術普及などによって、良質小麦の安定生産を確立することが必要となっています。



資料：JA ふらの



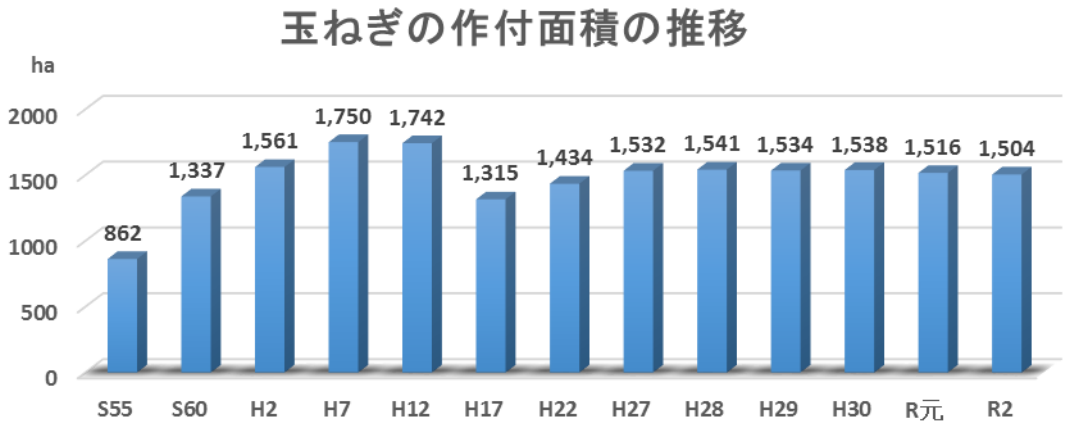
資料：JA ふらの

３．野菜

令和２年度の野菜作付面積は2,767haとなっており、主要農作物作付面積の約30%を占めています。また、本市は比較的気象条件に恵まれていることから、道内でも有数な野菜の生産地域となっています。

【玉ねぎ】

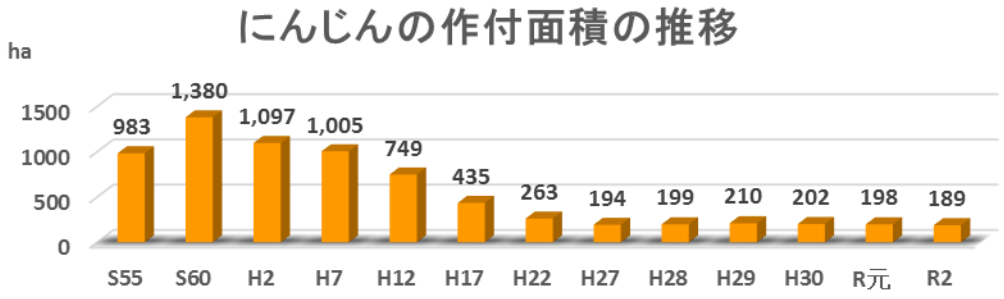
玉ねぎは、昭和40年代から全市的に栽培が拡がり、今日では富良野を代表する農産物のひとつとなっています。近年では、エチレン貯蔵庫の整備などにより長期貯蔵が可能になり年間を通して安定した出荷体制となっています。



資料：JA ふらの

【にんじん】

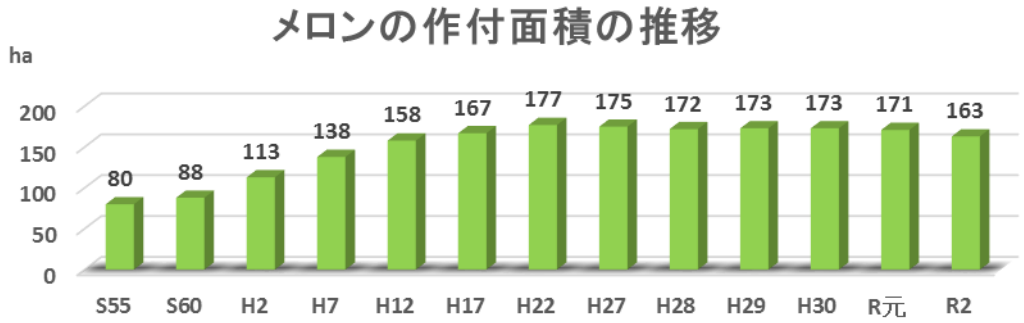
にんじんは、昭和60年度の1,380haをピークに減少傾向にありましたが、令和２年度の作付面積は189haと近年は横ばいになっています。



資料：JA ふらの

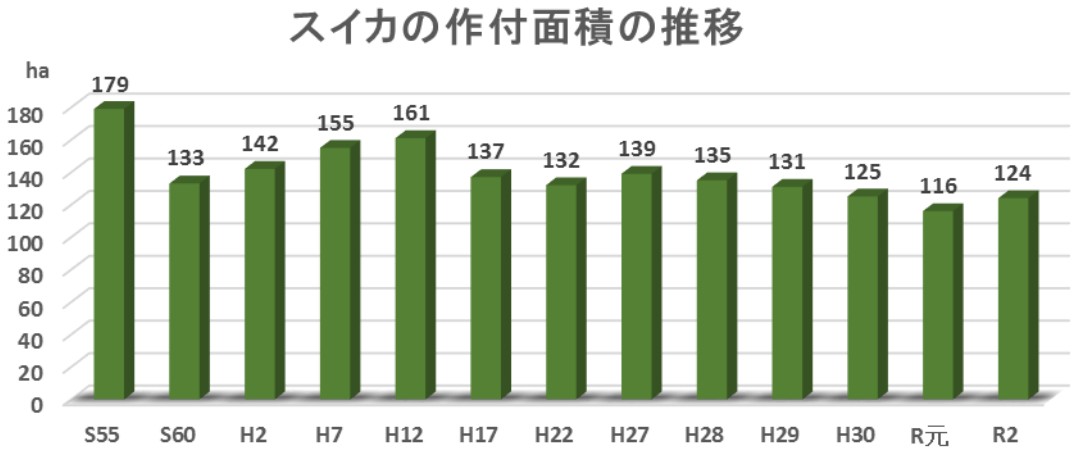
【メロン】

メロンは昭和45年頃から本格的に取り組み、令和２年度の作付面積は163haとなっています。内陸性気候の特性である昼夜の寒暖の差を活かし、高い糖度と品質を誇っており、平成30年9月より、ふらのメロンとして広域の統一ブランドとして出荷しています。



資料：JA ふらの

【スイカ】
昭和30年代後半、御料地区において果樹団地造成の気運が高まり、りんご・なしの間作としてスイカを栽培し研究したところ、それが他作物に比べ優れていたことから、更に試作・研究を重ね、本格的作付けがはじまりました。
恵まれた地形・地質と気象条件を活かすとともに、栽培技術の改善や栽培方法の研究を重ねています。また、令和２年に共選施設が完成しました。機械による品質の検査を行い品質の向上に努めています。令和２年度の作付面積は124haとなっています。



資料：JA ふらの

【ぶどう】
石れき傾斜地等低生産地の所得増大を図るとともに、未利用地の高度利用を目指すためワイン原料用ぶどうの栽培を推進し、現在では全道を代表するワイン産地が形成されています。富良野地方の気候風土に適した専用品種であるセイベル種を主体に、安定した生産により優れたワインの品質が確保され、現在加工用ぶどうは30ha作付されています。

【スイートコーン】
スイートコーンの令和２年度作付面積は272haとなっています。主に生食用が多く、朝採り収穫の徹底と予冷施設の利用により、出荷の平準化を図っています。

【ミニトマト】
令和２年度の作付面積が24haとなっています。ミニトマトの導入の歴史は新しく、基本的栽培技術の徹底と労働力・経営形態に即した技術の導入などにより、長期安定生産を進めています。

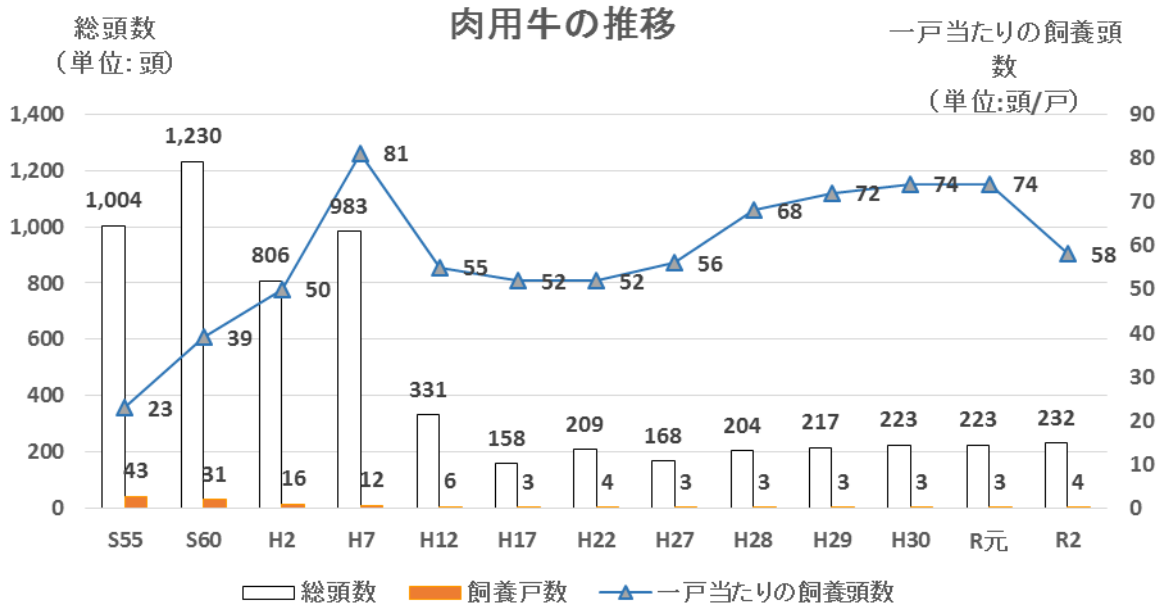
【かぼちゃ】
令和２年度の作付面積は206haとなっており、早出し出荷や加工対応など高品質生産に努めています。

【軟白長ねぎ・アスパラガス（グリーン・ホワイト）】
土づくりを基本に栽培技術の徹底、安定収穫の確保や品質の向上などに努め、特色ある野菜産地づくりを進めています。軟白長ねぎは8ha、アスパラガスは43haとなっています。

４．畜産

【肉用牛】

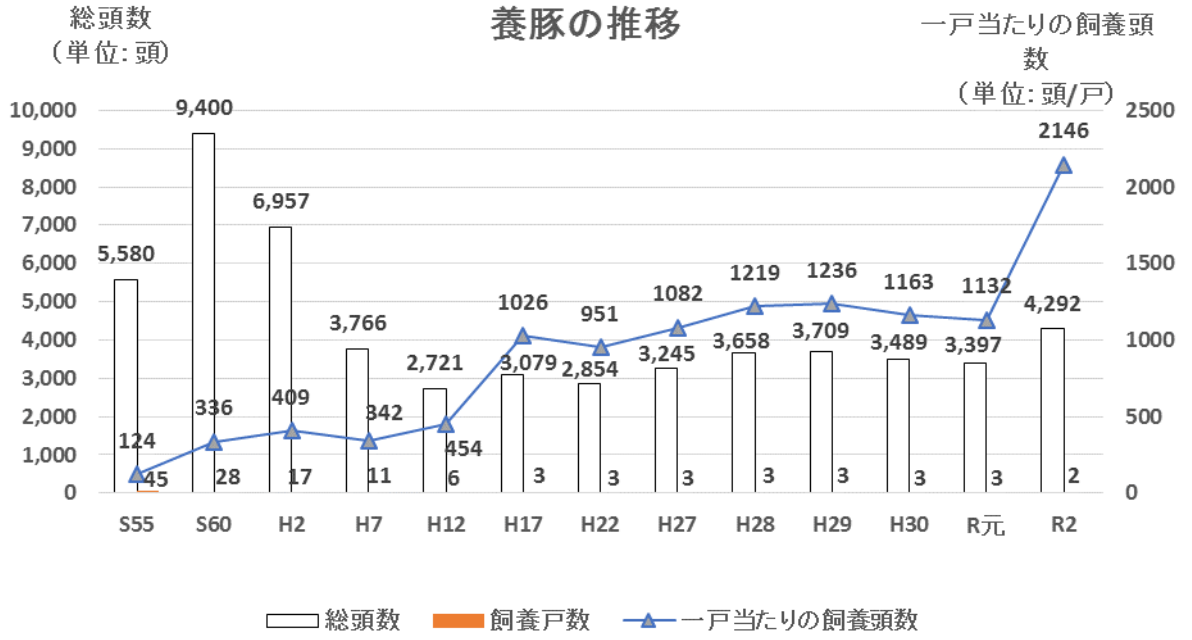
令和２年度の飼養戸数は４戸で飼養頭数は 232 頭と、どちらも昨年より増加しています。ＪＡふらのの沿線市町村の飼養者と連携し、『肉牛改良部会』の組織化や飼料や飼育方法にこだわった『ふらの大地和牛』の生産など積極的に優良子牛や肥育牛の生産販売を進めています。



資料：市農林課

【養豚】

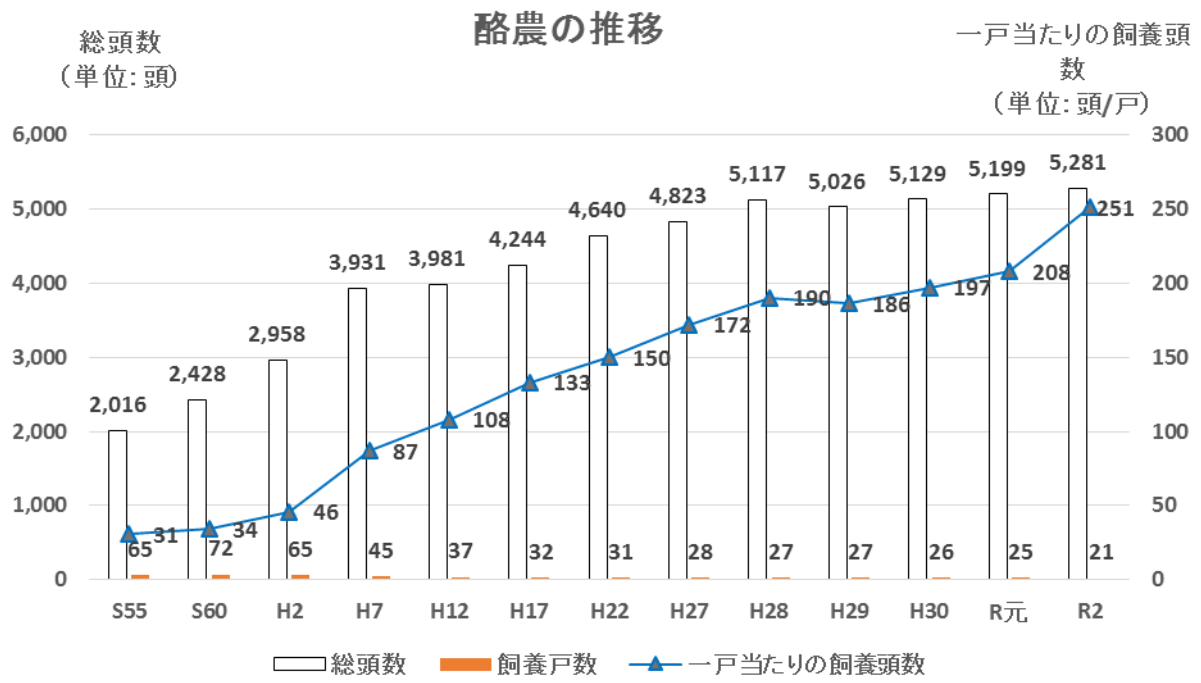
令和２年度の飼養戸数は２戸、飼養頭数は 4,292 頭で飼養戸数は減ったものの、飼養頭数が約 900 頭増加したため、一戸当たりの飼養頭数が前年に比べて約２倍になっています。また、衛生管理基準の厳守など安心安全な取り組みが求められています。



資料：市農林課

【酪農】

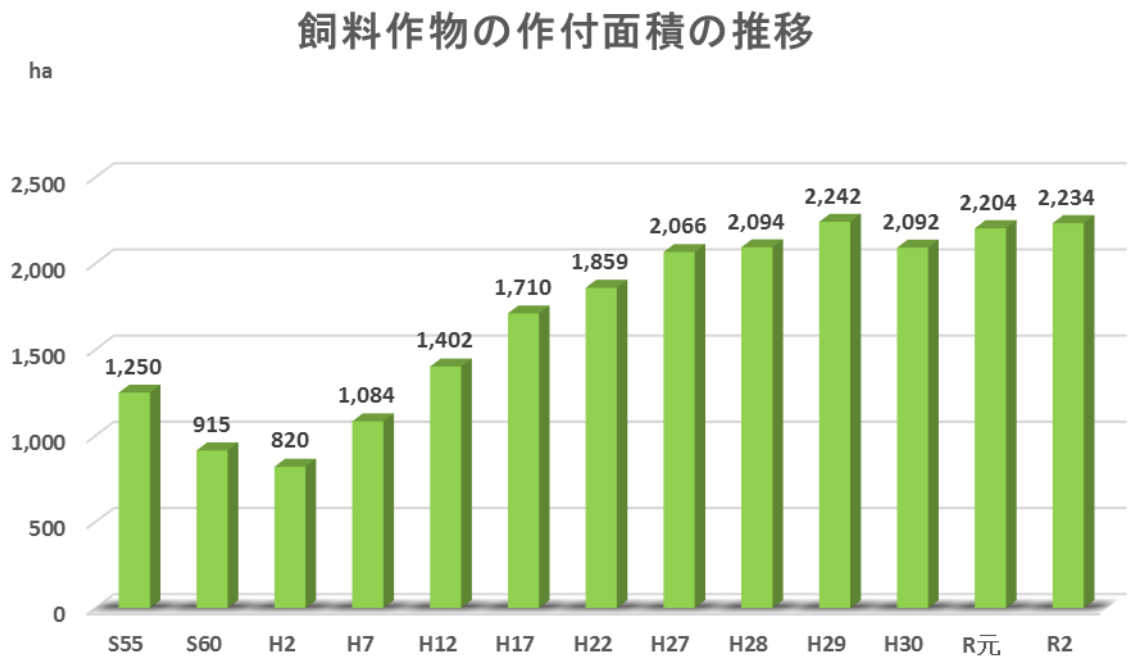
令和２年度は 21 戸で昨年より減っていますが、飼養頭数は 5,281 頭と増えており、１戸当たりの飼養頭数は約 251 頭と拡大傾向となっています。生乳生産量は約 30,500 t と経産牛 1 頭当たりの乳量の増加により堅調に推移しており、酪農家や関係機関の経営改善の努力により全道トップクラスの水準であり、少数ながら安定的な生産と堅実な経営努力により富良野農業の重要な位置を占めています。



資料：市農林課

【飼料作物】

令和２年度の栽培面積は、約 2,234ha となっており、近年は横ばいで推移しています。農地の確保が容易ではなく、機械施設の整備、労働力確保、耕種農家との連携等が課題となっています。



資料：市農林課

富良野農業の概要

令 和 3 年 6 月 発 行

発 行　富 良 野 市 役 所
編 集　富 良 野 市 経 済 部 農 林 課

北海道富良野市弥生町1番1号
TEL 0167－39－2309